

なかなか上達しないギター

『禁じられた遊び』が弾けたらなあ！』『アルハンブラの思い出』もつまびけたらなあお素晴らしい・・・」——ギターを始める誰もが抱く夢でしょう。筆者も例に洩れず、その一人でした。

初めて弦に触れたのは定年になる少し前。信濃町にある日本スペイン協会でギターのクラスがあることが分かり、週1回、半年間ほど通ったのです。本場スペインで修業したという先生から個人的に手ほどきを受けました。アルペジオから入門の曲を練習。

最初のころは弦を押さえる左手の指の甲が腫れ痛みました。数カ月すると弦があたる部分の皮が厚くなり痛みも無くなった。レッスンは1回30分。教室で基本を教わり、問題点の指摘をしてもらい、あとは自宅で練習に励むわけです。

ギターを買い、持ち運びのためのケース、足台を揃え、譜面台を前に立てるといっばしのミュージシャン気どりになるから面白いものです。練習教本にある古賀メロディーに魅せられ、その後、弟子のアントニオ・古賀の演奏公演にも何回か出かけました。

スポーツも楽器演奏も上達は練習の継続と量。ある著名なバレリーナの言葉に「1日休むと自分に分かり、2日休むと監督に分かり、3日練習を休むと<その質の低下が>観客でも分かる」とあります。至言です。



マラガ大学に学ぶ留学生をアパートに呼んで

こうしたなか、2年ほど前から再び発心、習ったことを思い出しながら弦をつまびいています。昨年は拙宅でホームコンサートを催したり、今年の春からは「サタディ・ギター・ボランティア」のグループ仲間に加わって、土曜日の午前中に練習し、年に何回か老人施設などへ慰問演奏に出かけたりしています。“公演”のスケジュールが決まると皆でそれに向かって練習を始めます。演目は8曲ほど。グループ員5人ほどの中では自分は最も“未熟組”。今はコードで弾けるよう一生懸命に自宅で個人練習もしているところです。

幸いに、本番では私がキチンと弾けなくても仲間の演奏と歌に助けられてなんとか形になる。聴衆の皆さんも結構楽しんでくれ、「ブラボー！」「お上手ですね」なんてお世辞も聞かれます。

褒められると誰でも嬉しくなるもの。「ようし、次回までにはもっと腕を磨いて・・・」なんて。なかなか上達しないけれど、自分も他人も楽しめるギターは、定年後の新しい“財産”みたいになっています。それに指を動かすことは老化防止にも役立つと言うし・・・



スペイン人音楽教師のレッスン

かくして定年2年目にスペインのマラガ大学に留学した際には、せっかくギターの本場にいるのだからと、スペイン製ギターを買い、大学での勉強の傍らアパートではスペイン人のギター教師について練習したのでした。

ところが帰国後、私は思いがけずも鬱になってしまいました。幸いに1年ほどで完治しましたが、以来、ギター演奏とは遠ざかってしまっていた。



ギターがダメなら歌で